

財務分析により自社の課題を把握する

Q. 財務分析から自社の課題をどのように把握するか？

要旨 財務分析を行うことは経営の見える化の基本です。財務分析は決算書等の客観的な数字からそれぞれ計算されるため、計算された指標には恣意性が介入する余地はありません。そのため、財務分析は客観的な会社の強みや弱みを浮き彫りにし、それを基に行う提案は説得力をもつものになるでしょう。ただし、決算書の信頼性が重要になります。

解説

1. 財務分析とは

会社は利益をあげることを目的としています。株主が出資し、不足分の資金を借入れ、投資をし、商品をつくり、利益を獲得し、その利益で再度投資をするといった一連のサイクルを繰り返します。この一連のサイクルのある時点の状況が決算書の貸借対照表であり、一定期間の経営成績が損益計算書に表れます。その数字をもとに財務分析を行い、指標を分析することで、会社の現状を客観的に把握することができます。

2. 実数分析と比率分析

財務分析を大きく分けると、「実数分析」と「比率分析」に分類することができます。

実数分析とは、決算書等の数値を使い、過去の数字と比較し増減を分析する手法です。売上高、販売管理費、経常利益などの損益科目、売掛金、買掛金、借入金などの貸借科目の増減を比較して分析します。

他方、比率分析とは、決算書等の数値に着目せずに、それぞれの比率に着目した分析方法です。企業規模の大小にあまり影響されず、会社規模が小さくても経営状況が安定しているなど、企業規模に左右されずに分析を行うことができます。一般的に財

務分析といった場合には比率分析を指すことが多く、ここでも比率分析について説明します。

3. 財務分析の方法と課題の把握

ここでは財務分析における比率分析の指標を、収益性、安全性、効率性、生産性、成長性の5つに分類しています。財務分析の結果は、他の財務分析の結果と比較することによって、その指標を有効に活用することができます。比較対象としては、理論値、自社の過去の数字（前3期等）や業界平均などが一般的です。

比較対象を決め、5つの分野について分析することにより、会社の強み弱みを理解することができようになります。そこから経営課題を見つけ出し改善することによって、財務分析を経営に活用することができます。

定期的な比率分析で課題を発見し 改善を図る

＜ご提案のポイント＞

- ・ 自社の経営状態を把握することは、人の健康診断と同じで非常に重要です。
- ・ 悪い部分が見つければ、それに対応することにより、悪化する前に処置することで最悪の事態を回避することができます。
- ・ 定期的な財務分析を行うことで、タイムリーに会社経営に活用することができます。

1. 財務分析で自社を診断する

財務分析は、自社の貸借対照表や損益計算書などの決算書類から、収益性、安全性、効率性、生産性、成長性の5つの観点で分析します。それぞれの観点における指標から、それぞれの観点における自社の現状を診断することができます。財務分析は一定の会計ルールに基づいて作成された決算書をベースに計算するため、恣意性が入らない定量的な指標になります。

財務分析の指標は、自社の数値だけでは意味がありません。それを活用するには比較することが必要です。同業種、同業態、会社の目標数値及び過去の指標と比較することで、それぞれの観点から見た会社の状況を把握することができます。そこから見えてくる自社の強みや弱みは、もしかしたら、自社で気づいていないものもあるかもしれません。

2. 財務分析の特長

財務分析は、前期と当期の売上高、販売管理費、経常利益の増減の差額で分析せず、売上高に対する経常利益の割合などのように、比率で分析を行います。前者は会社規模の大小により単純に比較することができず、後者は業種や業態による特長はあるものの、比率を算定するため、会社規模の大小を問わず比較することができます。

3. 財務分析の活用

財務分析を行うことで、自社の課題が見えてきたら、それを活用して解決することが、自社の成長のために必要になります。課題の解決方法にはさまざまな方法があり、具体的な計画に落とし込み検証することが不可欠です。計画を作成し実行する過程で、実際の行動が改善に結びついている状況か否かを、財務分析を行い、指標を確認することで検証することができます。

そして、財務分析を経営に活かすためには、1年ごとの決算の度に行うのではなく、定期的に財務分析を行い、経営に活用するといいいでしょう。5つの観点のすべてを行うのが難しいときには、自社で重要視する指標だけでも定期的に確認するようにしてください。その確認はできれば月ごと（最低でも四半期ごと）に行うようにしてください。